

# 第63期 中間報告書



2020年4月1日から2020年9月30日まで

**ローム株式会社**  
証券コード 6963

MSCI ESGレーティング  
**A評価を獲得**



EcoVadis社サステナビリティ評価  
**ゴールド評価獲得**



## ロームは、 ESG投資への対応に 注力しています。

ロームは、様々な社会的責任投資 (SRI) インデックス・評価機関の構成銘柄に選定されました。

SUSTAINA ESG AWARDS  
**ブロンズクラス受賞**



経済産業省 健康経営優良法人～ホワイト500  
**3年連続認定**



FTSE4Good Index  
**17年連続選定**



FTSE Blossom Japan Index  
**4年連続選定**



**E**nvironment  
●環境配慮製品の開発  
●積極的な再生エネルギーの導入  
●エネルギー使用量の削減など



ローム浜松 太陽光発電システムの事例

**S**ocial  
●ダイバーシティの促進  
●従業員の安全・健康の確保  
●地域社会への貢献など



女性従業員のキャリアデザイン研修 (2019年度実施)

**G**overnance  
●取締役会の役割構成  
●事業継続マネジメント  
●株主との対話など



株主総会



代表取締役社長 松本 功

## ■ 企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

## ■ 経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、もって企業の発展を期する。健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

## ■ 経営ビジョン

パワーとアナログにフォーカスし、お客様の“省エネ”・“小型化”に寄与することで、社会課題を解決する。

## 株主の皆様へ

### 業績の概要

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、前半は新型コロナウイルス感染症の蔓延が各国の生産・個人消費などを悪化させましたが、後半は中国の鉱工業生産が回復したことなどにより、回復の兆しが見え始めました。

エレクトロニクス業界において、自動車・産業機器関連では、市場は低迷しましたが、後半は中国の新車販売台数の改善が見られました。また民生機器関連市場も全体としては低迷しましたが、新型コロナウイルス感染症対策としてのライフスタイルの変化により一部の市場は好調に推移しました。

ロームグループにおきましては、「パワー」、「アナログ」及び「スタンダードプロダクツ」など、強みを持つ技術領域の新製品・新技術の開発に取り組むと共に、生産面においても、先進の品質管理体制の構築や省人化・自動化の推進など、「モノづくり改革」を継続して進めました。また、新型コロナウイルス感染症拡大に対応して、代替生産や物流ルートの確保などの供給維持対策を進めると共に、リモートアクセス化などテレワークによる業務環境を整えました。

新型コロナウイルス感染症の業績に対する影響は、一部の生産拠点において一時的な稼働制限を受けましたが、大きな影響はありませんでした。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,680億4千9百万円(前年同期比11.0%減)となりました。また、営業利益は、126億8千7百万円(前年同期比28.6%減)、経常利益は、117億9千9百万円(前年同期比37.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利

益は、125億2千7百万円(前年同期比8.7%減)となりました。

### 今後の見通し

新型コロナウイルス感染症は、現時点においても世界各地で蔓延しており、終息の兆しが見えないものの、徐々に各地域の経済活動は回復に向かっており、自動車関連市場などでも生産や販売の回復が見られます。

このような状況を踏まえ、2021年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり見込んでおります。

ロームグループでは、引き続き市場のニーズに合致した高付加価値製品の開発と共に、生産面においても、先進の品質管理体制の構築や省人化・自動化を推進し、中長期的な売上増加と利益体質の強化に努めてまいります。

### 通期業績予想(連結)

(単位:億円)

	2020年3月期	2021年3月期予想	前期比増減率
売上高	3,628	3,400	△6.3%
営業利益	294	230	△22.0%
経常利益	357	230	△35.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	256	190	△25.9%

※2021年3月期下半期の為替レートは、1米ドル=105円を前提としております。

株主の皆様には、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

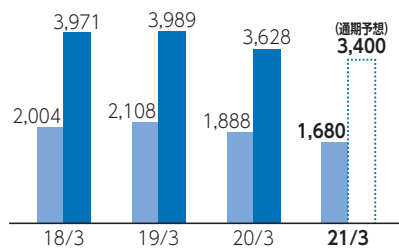
2020年12月

代表取締役社長 松本 功

# 財務ハイライト

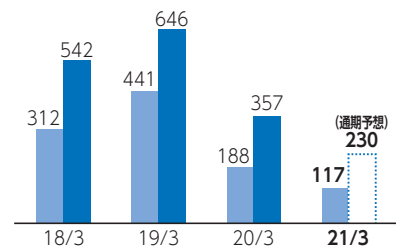
## 売上高 (単位: 億円)

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



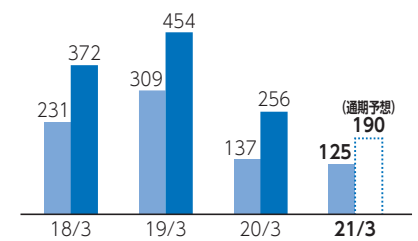
## 経常利益 (単位: 億円)

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



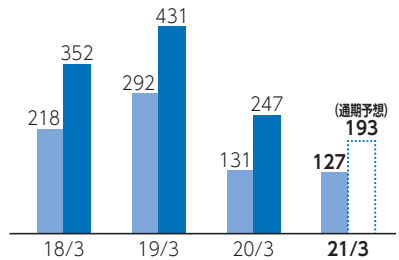
## 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (単位: 億円)

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



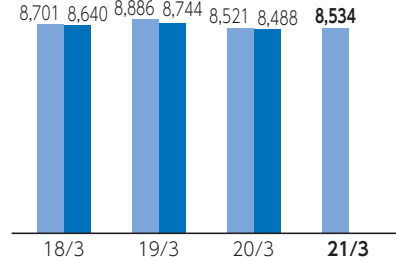
## 1株当たり四半期(当期)純利益 (単位: 円)

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



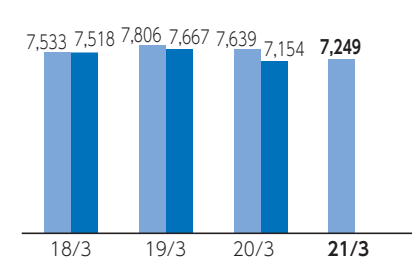
## 総資産 (単位: 億円)

■ 第2四半期 ■ 期末



## 純資産 (単位: 億円)

■ 第2四半期 ■ 期末



# 四半期連結財務諸表 (要約)

## 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 (2020年9月30日)	前期 (2020年3月31日)
流動資産	514,472	517,888
固定資産	339,002	330,984
資産合計	853,474	848,873
流動負債	54,988	62,367
固定負債	73,580	71,026
純資産合計	724,905	715,479
負債純資産合計	853,474	848,873

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	前第2四半期 累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,872	33,850
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,570	5,888
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,955	△8,304
現金及び現金同等物の四半期末残高	241,454	254,778

## 四半期連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	前第2四半期 累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	168,049	188,834
売上原価	115,882	130,433
売上総利益	52,167	58,401
販売費及び一般管理費	39,479	40,630
営業利益	12,687	17,771
営業外収益	1,884	3,522
営業外費用	2,772	2,468
経常利益	11,799	18,824
特別利益	65	1,879
特別損失	322	883
税金等調整前四半期純利益	11,542	19,821
法人税等合計	△997	6,097
四半期純利益	12,539	13,723
非支配株主に帰属する四半期純利益	12	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,527	13,713

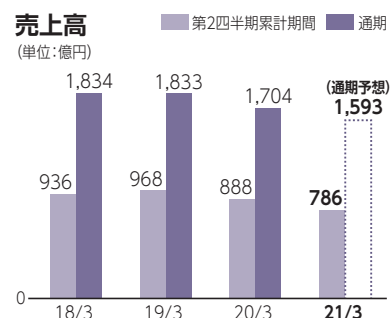
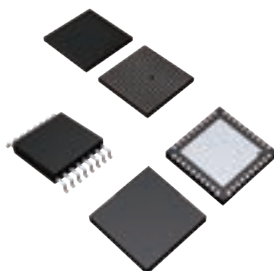
# セグメント別の概況

## LSI

主な製品 ●アナログ ●ロジック ●メモリ ●MEMS

- 売上高 786億5百万円 (前年同期比 11.6%減)
- セグメント利益 37億1千2百万円 (前年同期比 40.6%減)

自動車関連市場は、市場低迷によりインフォテインメント向けの電源、各種ドライバICなどの売上が減少しました。産業機器関連市場は、FA関連市場向けを中心に下げ止まり感が見られました。民生機器関連市場は、PC向けが好調であった一方、スマートフォンやAV機器向けなどを中心に総じて厳しい状況となりました。

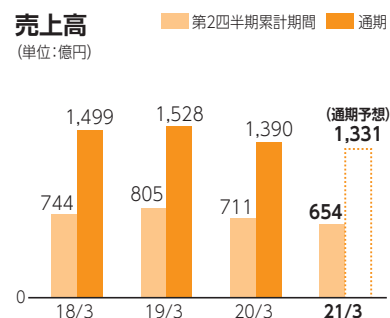
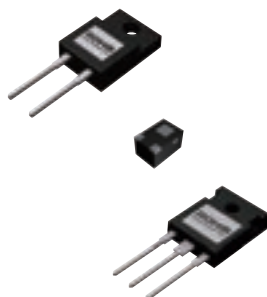


## 半導体素子

主な製品 ●トランジスタ ●ダイオード ●発光ダイオード ●半導体レーザー

- 売上高 654億3千2百万円 (前年同期比 8.1%減)
- セグメント利益 76億8千3百万円 (前年同期比 0.8%増)

トランジスタやダイオードは、産業機器関連市場向けで改善傾向が見られましたが、自動車関連市場向けを中心に売上が減少しました。パワーデバイス部門は、自動車関連市場向けで売上が減少しました。また、発光ダイオードは、AV機器向けなどで売上が減少しました。半導体レーザーは、家電市場向けを中心に売上が増加しました。

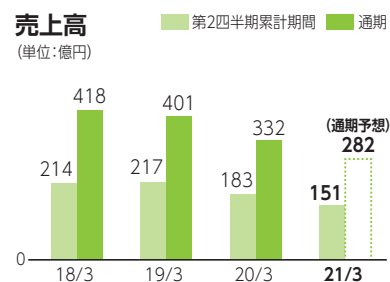
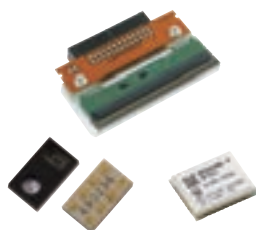


## モジュール

主な製品 ●プリントヘッド ●オプティカル・モジュール ●パワーモジュール

- 売上高 151億2千6百万円 (前年同期比 17.4%減)
- セグメント利益 11億7千4百万円 (前年同期比 49.8%減)

プリントヘッドは、決済端末向けを中心に売上が減少しました。オプティカル・モジュールは、自動車関連市場向けのリアランプ用LEDモジュールの売上が減少しました。

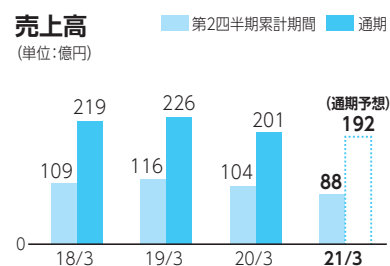
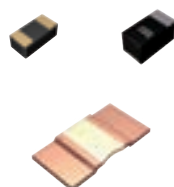


## その他

主な製品 ●抵抗器 ●タンタルコンデンサ

- 売上高 88億8千5百万円 (前年同期比 15.1%減)
- セグメント利益 4億7千7百万円 (前年同期比 56.4%減)

抵抗器は、自動車関連市場向けで売上が減少しました。一方、タンタルコンデンサは、PC向けなどで売上が増加しました。





## 製品 車載主機インバータなどへの普及を加速 業界トップの低オン抵抗を実現した第4世代SiC MOSFETを開発

主機インバータをはじめとする車載パワートレインシステムや産業機器向け電源に最適な「1200V 第4世代SiC MOSFET」を開発しました。この製品は、独自のダブルトレンチ構造をさらに進化させ、従来品と比べ単位面積当たりのオン抵抗を約40%低減し、スイッチング損失を約50%削減。この特徴を活かし、今後一層の普及が加速するEV市場向け車載インバータや各種スイッチング電源など様々なアプリケーションの劇的な小型化や低消費電力化に貢献します。



### ロームのパワーデバイスが、EVの主要顧客に認められました Vitesco TechnologiesとSiCパワーソリューションで協力

欧州コンチネンタルグループのVitesco Technologiesより、SiCテクノロジーのプリファードサプライヤーとして選定。EV向けパワーエレクトロニクス開発パートナーシップ(2020年6月より開始)に調印しました。



### Leadrive TechnologyとSiC搭載車載 インバータ開発用共同研究所を開設

中国の新エネルギー自動車向け駆動分野の先進企業であるLeadrive Technologyと「SiC技術共同研究所」を開設、2020年6月9日に除幕式を実施しました。

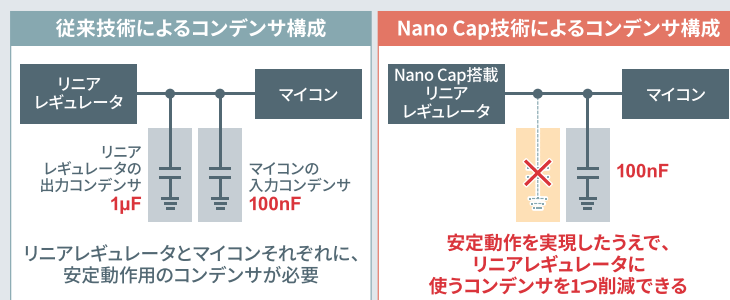


## 製品 コンデンサ容量を大幅に低減できる電源技術「Nano Cap™」を確立

自動車や産業機器をはじめとする各種電源回路の外付けコンデンサ容量が、極小のnF(ナノファラッド)でも安定制御できる電源技術「Nano Cap」を確立しました。

今回の技術を搭載することにより、リニアレギュレータ出力側のコンデンサが不要となり、100nFのコンデンサだけで動作が安定し、回路設計負荷の大幅な軽減が可能になります。今後は、オペアンプやLEDドライバなど他のアナログICでも「Nano Cap」を搭載した製品を開発し、コンデンサの削減や容量低減はもちろん、資源の有効活用や環境負荷の低減を通して、社会に貢献します。

### 「Nano Cap™」が提供できるソリューション



従来必須の出力コンデンサを削減するなど、アプリケーションのコンデンサ課題解決に貢献

## ESG 本社にて社内フードドライブを実施

学校給食のない夏休みに、十分な食事を摂ることが困難な状況にある子ども達を支援するため、NPO法人セカンドハーベスト京都の「こども支援プロジェクト」に参画し、本社にて「社内フードドライブ」を実施いたしました。寄付された食品は、京都市の支援申込のあった400世帯に届けられました。

ロームでは、これからも企業市民として地域貢献につながる活動を積極的に推進してまいります。



## ESG 資本効率の改善への取組

### 「DEALWATCH AWARDS 2019」を受賞

昨年末から今年にかけて、株主還元強化と、資本効率の改善を図るために500億円の自己株式の取得を実施していましたが、そのうち400億円をユーロ円CBの発行によって調達しました。ロームの株主還元や資本効率に関する一連の積極的な姿勢が、市場から評価されました。今後も、ステークホルダーの評価を高めていけるよう努めてまいります。





## 社名について

半導体メーカー・ローム (ROHM) の社名由来は創業当時の生産品目である抵抗器 (Resistor) の頭文字「R」に抵抗値の単位Ω [ohm] を組み合わせたものです。「R」は信頼性 (Reliability) にも通じており、品質を第一とするロームの企業姿勢を示しています。

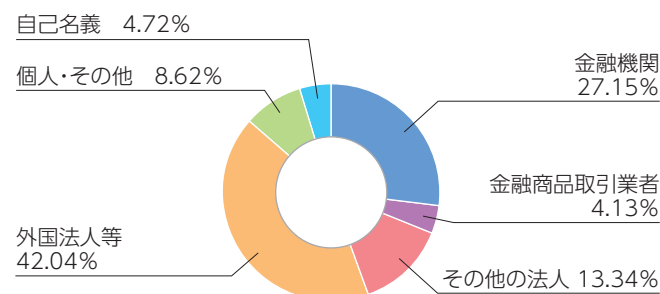
## ■ 会社概要

社名	ローム株式会社 (ROHM COMPANY LIMITED)
本社	〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21 TEL (075) 311-2121
設立年月日	1958年9月17日
資本金	86,969百万円
従業員数	3,482名 (ロームグループ22,161名)

## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式総数	103,000,000株 (自己株式4,864,423株を含む)
株主数	25,204名

## ■ 所有者別株式分布状況



## ■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション	10,385	10.58
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	8,932	9.10
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	5,686	5.79
株式会社京都銀行	2,606	2.65
GIC PRIVATE LIMITED - C	1,785	1.81
株式会社日本カストディ銀行 (信託口5)	1,733	1.76
JP MORGAN CHASE BANK 385781	1,352	1.37
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,279	1.30
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,208	1.23
株式会社日本カストディ銀行 (信託口9)	1,102	1.12

(注) 1. 持株数は千株未満を、持株比率は小数点第2位未満を、それぞれ切り捨てて表示しております。  
2. 当社の自己株式 (4,864千株) は、上表から除外しております。  
3. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式を除いた数に基づき、算出しております。

## ■ 取締役

代表取締役社長

取締役

取締役

取締役

取締役

取締役

社外取締役

社外取締役 (常勤監査等委員)

社外取締役 (監査等委員)

社外取締役 (監査等委員)

社外取締役 (監査等委員)

松本 功

東 克己

山崎 雅彦

上原 邦生

立石 哲夫

伊野 和英

西岡 幸一

仁井 裕幸

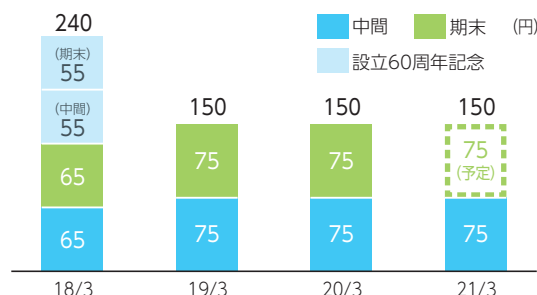
千森 秀郎

宮林 利朗

田中 久美子

(注) 社外取締役 西岡幸一、仁井裕幸、千森秀郎、宮林利朗、田中久美子の各氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

## ■ 配当金の推移



## ■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
TEL (0120) 094-777 (通話料無料)

金融商品取引所 東京証券取引所

公告方法 以下の当社ホームページに掲載しております。  
<https://www.rohm.co.jp>

(ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします)

ローム ホームページ  
<https://www.rohm.co.jp>

投資家情報  
<https://www.rohm.co.jp/investor-relations>

